

科目名	公害防止管理者Ⅰ			担当教員	伊藤 博実	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	環境系企業                      環境計量士業務 公益法人（労働安全）      作業環境測定士業務 一般社団法人（計量）      一般計量士業務								
学修内容	汚水処理特論について、公害防止管理者（水質4種）試験に準じた知識を取得する。								
到達目標	10月実施する公害防止管理者（水質4種）試験に合格することを目指す。								
授業の方法	「新・公害防止の技術と法規・技術偏」、「公害防止管理者等国家試験正解とヒント」を使用して公害防止管理者（水質4種）試験の問題演習をこなしていく。								
成績の評価と基準	公害防止管理者（水質4種）試験結果と課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。								
授業計画	1.活性汚泥法 2.生物膜法 3.嫌気処理法 4.生物的硝化脱窒素法 5.リンの除去 6.その他の生物処理法 7.生物処理装置の維持管理 8.試料採取 9.流量測定 10.分析の基礎 11.測定各論 12.過去問演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規・技術偏                      一般社団法人産業環境管理協会 公害防止管理者等国家試験正解とヒント              一般社団法人産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし。								

科目名	労働安全衛生Ⅰ			担当教員	伊藤 博実	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	環境系企業 環境計量士業務 公益法人（労働安全） 作業環境測定士業務 一般社団法人（計量） 一般計量士業務								
学修内容	各種作業主任者の技能講習で行われる作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識・技能を取得し、労働災害の防止に役立てるようにする。								
到達目標	各種作業主任者の技能講習で行われる終了試験に合格することを目指す。								
授業の方法	各種作業主任者で使用されるテキストを使用し、作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識を取得する。								
成績の評価と基準	課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。								
授業計画	1.労働衛生法について 2.ダイオキシン類について 3.酸素欠乏および硫化水素中毒の原因および防止対策 4.保護具（酸素欠乏作業で使用する呼吸用保護具等） 5.硫化水素濃度測定 6.特定化学物質・四アルキル鉛等の作業環境の改善方法 7.特定化学物質・四アルキル鉛等の労働衛生保護具								
使用教材等	酸素欠乏危険作業主任者テキスト 特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者テキスト			中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会					
履修上の留意点・他	特になし。								

科目名	労働安全衛生Ⅱ			担当教員	伊藤 博実	常勤・非	非常勤	実務経験	有	
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	環 コ ー ス	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	60			
実務経験	環境系企業 環境計量士業務 公益法人（労働安全） 作業環境測定士業務 一般社団法人（計量） 一般計量士業務									
学修内容	各種作業主任者の技能講習で行われる作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識・技能を取得し、労働災害の防止に役立てるようにする。									
到達目標	各種作業主任者の技能講習で行われる終了試験に合格することを目指す。									
授業の方法	各種作業主任者で使用されるテキストを使用し、作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識を取得する。									
成績の評価と基準	課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。									
授業計画	1.有機溶剤の作業環境の改善方法 2.有機溶剤の労働衛生保護具 3.石綿の作業環境の改善方法 4.石綿の労働衛生保護具 5.鉛の作業環境の改善方法 6.鉛の労働衛生保護具 7.作業環境測定について									
使用教材等	有機溶剤作業主任者テキスト 石綿作業主任者テキスト 作業主任者テキスト			中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会					鉛	
履修上の留意点・他	特になし。									

科目名	就職実務			担当教員	榎園 克寿	常勤・非	常勤	実務経験	無
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験									
学修内容	就職に向けた心構え。就職に必要な資格取得。DVD等による企業の説明。勘定科目の説明や予算立案等。								
到達目標	社会人になる心構えや仕事に対する厳しさ等を理解する。								
授業の方法	主として、教員の実務経験に基づいた講義。DVD等を使った講義。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験。出席状況を総合的に判断（筆記試験：80％・出席：20％）して評価する。								
授業計画	1. 社会人とは 2. 企業に必要な資格 3. 勘定科目の説明や予算立案について DVD ある企業の操業や機械の種類								4.
使用教材等	特になし								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	電子回路			担当教員	榎園 克寿	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	民間放送局 子会社 技術部 放送中継基地 保守業務 補助								
学修内容	電子回路の基礎知識（部品及びアナログ・デジタル回路）を習得する。								
到達目標	1.低周波及び高周波回路の動作が理解できる。 2.テスターによる測定ができる。								
授業の方法	（講義）教科書及び解説により、回路図上の各回路・各部品の動作を理解する。 （演習）半田ごてを使用し回路を製作する事により、部品の理解と実技を身に着ける。								
成績の評価と基準	期末試験、出席状況、実習状況及び成果物を総合的に判断して評価する。								
授業計画	1. 回路部品 回路部品・工具の種類や内容を理解する。 2. テスター制作 抵抗など部品の理解、半田づけ 3. テスター制作 抵抗など部品の理解、半田づけ 4. テスター制作 抵抗など部品の理解、半田づけ 5. テスター制作 抵抗など部品の理解、動作の確認 6. 直流回路 直流・交流の違い、電源回路、単位の理解 7. 交流回路 交流回路・部品・周波数・インダクタンス 8. ラジオ制作 使用部品・真空管、動作の理解 9. ラジオ制作 電源回路・平滑回路の理解 10. ラジオ制作 検波回路・低周波増幅回路の理解 11. ラジオ制作 高周波回路・変調方式・デジタル変換 12. ラジオ制作 動作チェック・測定器の使用 13. ラジオ制作 キットの復元、高圧・解放電圧の注意 14. 照明について 光の単位について 15. 期末考査 期末試験								
使用教材等	教科書：トコトンやさしい回路設計の本 （谷腰欣司著：日刊工業新聞社）(ISBN 978-4-526-06371-8 C3034)								
履修上の留意点・他	半田ごての使用は、監督者のもとで行う。								

科目名	品質マネジメントシステム（初級）			担当教員	新里 亮吾	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	ビジネスコンサルティング会社 ISO認証取得サポート業務 コンサルティング業務								
学修内容	品質マネジメントシステムで「プロセスアプローチ」について学ぶ。								
到達目標	自分及び身の回りの行動は、一連のプロセスで有ることを認識できて、プロセスアプローチを理解することでリスクについて気づけるようになる。								
授業の方法	「プロセスアプローチの教本 実践と監査へのステップ10」を利用してプロセスアプローチを学ぶ。								
成績の評価と基準	事例を取り上げ、プロセスフローの作成、プロセスの構造、繋がりとリスクを具体的に記述できること。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロセスを理解する。</li> <li>2. 自分の行動を箇条書きにしてみよう</li> <li>3. プロセスは支えられている。</li> <li>4. プロセスは見つめられている。</li> <li>5. プロセスアプローチを理解する。</li> <li>6. 良い結果と悪い結果とは何かを理解する</li> <li>7. 資格試験の取り組みでプロセスを考える。</li> <li>8. プロセスの目を理解する</li> <li>9. 付加価値とは何だろう</li> <li>10. プロセスの目を使ってプロセスを見守る</li> <li>11. リスクの目を理解する</li> <li>12. プロセスの目で分析する（プロセスアプローチ）</li> <li>13. リスクの目で分析する（リスクアプローチ）</li> <li>14. プロセスを監査する</li> <li>15. プロセスを改善する</li> </ol>								
使用教材等	プロセスアプローチの教本 実践と監査へのステップ10 発行：日本規格協会								
履修上の留意点・他	身近なことをプロセスの目とリスクの目で観察できるような思考を育てる								

科目名	品質マネジメントシステム（中級）			担当教員	新里 亮吾	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	ビジネスコンサルティング会社 ISO認証取得サポート業務 コンサルティング業務								
学修内容	品質マネジメントシステム（JISQ9001）を理解する。								
到達目標	規格の要求事項に、自分及び身の回りの行動を結びつけて、要求事項の目的を説明できるようになる								
授業の方法	「完全図解ISO9001の基礎知識140」を利用して品質マネジメントシステムの仕組み、構成を学ぶ。								
成績の評価と基準	マネジメントシステムの構成、仕組みを、事例を取り上げながら説明できること								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ISOとは国際規格を制定するところ</li> <li>2. 認定・認証制度とは適合性を検証し認定・認証する仕組み</li> <li>3. 組織は顧客要求事項を満たす製品・サービスを提供する</li> <li>4. 製品にはQ・C・Dの三要素が求められ、4つの品質側面は寄与する</li> <li>5. 品質マネジメントシステムの基本について</li> <li>6. 品質マネジメントシステムとプロセスアプローチ</li> <li>7. 製品及びサービスについて考える</li> <li>8. ISO9000ファミリー規格の基本概念</li> <li>9. ISO9004規格の概要を知る（組織の持続的成功のための運営管理品質マネジメントアプローチ）</li> <li>10. ISO19011規格の概要を示す（マネジメントシステム監査のための指針）</li> <li>11. ISO9001規格は何を達成すべきかを考える</li> <li>12. ISO9001規格の附属書SLが作成された背景を知る</li> <li>13. 附属書SLはどのようなこうせいになっているのか</li> <li>14. 「共通テキスト」と「附属書SL」の構成を知る</li> <li>15. ISO9001規格の全体像を把握する</li> </ol>								
使用教材等	完全図解ISO9001の基礎知識140 発行：日刊工業新聞社								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	品質マネジメントシステム（上級）			担当教員	新里 亮吾	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	ビジネスコンサルティング会社 ISO認証取得サポート業務 コンサルティング業務								
学修内容	品質マネジメントシステム（JISQ9001）を理解する。								
到達目標	ISO9001規格の全体像を俯瞰し、身の回りの行動（プロセス）に必要な要求事項の要点を説明できるようになる								
授業の方法	「完全図解ISO9001の基礎知識140」を利用して品質マネジメントシステムの仕組み、構成を学ぶ。								
成績の評価と基準	マネジメントシステムの構成、仕組みを、事例を取り上げながら説明できること								
授業計画	1. ISO9001規格の基本事項と要点、序文で求めていることを理解する 2. プロセスアプローチ、PDCAサイクル、リスクに基づく考え方を知る 3. マネジメントシステムは顧客満足の向上を目的であることを知る 4. 製品にはQ・C・Dの三要素が求められ、4つの品質側面は寄与する 5. 組織と利害関係者との関係はどう有るべきかを知る 6. 品質マネジメントシステム及びそのプロセスを知る 7. 「リーダーシップ」を知る 8. 「計画」とは何かを知る（なぜ計画フェーズで「リスク」を考えるのだろうか） 9. リスクと機会への取り組みを知る 10. 品質目標を知り、自分の品質目標を作ってみよう 11. 「支援」について（プロセスの目に出てきた「支える人、支える物」との関係） 12. 「測定の特異性」を知る 13. 「力量、認識」とは何かを知る 14. 「コミュニケーション」の意図するものを知る 15. 「プロセスの妥当性確認」を知る								
使用教材等	完全図解ISO9001の基礎知識140 発行：日刊工業新聞社								
履修上の留意点・他	特になし								



科目名	職業実習Ⅰ			担当教員	田代昭久 竹添芳典 濱田秀二	常勤・非	常勤	実務経験	無
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験									
学修内容	就職に対する意識付けを早くからつけ、自身の職業像の参考にするために、環境に配慮した企業(工場)の現場を見学して、机上で学習している内容について具体化する。								
到達目標	企業(工場)について見聞を広め、業界・職種を知り職業意識を高め、具体的な就職活動への一助とする。								
授業の方法	現地へ赴き、企業からの説明と、見学を実施する。								
成績の評価と基準	事前研究・見学レポートを提出し、見学に対する姿勢・出席点等も考慮して総合評価し、点数化する。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前研究</li> <li>2. 企業(工場)見学</li> <li>3. レポート作成</li> </ol>								
使用教材等	資料：「見学のしおり」								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	職業実習Ⅱ			担当教員	田代昭久 竹添芳典 濱田秀二	常勤・非	常勤	実務経験	無
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科		環境マネジメントコース 情報プロフェッショナルコース オフィスビジネスコース	履修時間	30		
実務経験									
学修内容	1年次に引き続き環境に配慮した企業(工場)の現場を見学することにより、机上で学習している内容について再確認する。								
到達目標	企業(工場)について見聞を広め、業界・職種を知り職業意識を高め、自身の就職活動をより具体化する。								
授業の方法	現地へ赴き、企業からの説明と、見学を実施する。								
成績の評価と基準	事前研究・見学レポートを提出し、見学に対する姿勢・出席点等も考慮して総合評価し、点数化する。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前研究</li> <li>2. 企業(工場)見学</li> <li>3. レポート作成</li> </ol>								
使用教材等	資料：「見学のしおり」								
履修上の留意点・他	特になし								